

はじめに

本報告書を手にとっていただき心から感謝いたします。この岡山市精神障害者地域支援システム整備事業は、私たち岡山市こころの健康センターが、開設当初の平成21年4月から、多くの業務の中でももっとも力を注いできた事業です。これまでも2年ごとに定期的にご報告をさせていただいており、5年前には平成29年度～30年度分の事業について報告させていただきました。しかし残念ながら、その後コロナ禍の中で事業も一時停滞し、この報告書も前回から5年の間隔を空けることになってしまいました。

新型コロナウイルス感染拡大により、岡山市内の各精神科病院も大きな困難を経験することになりました。私たちの地域移行支援活動は精神科病院に長期にわたって入院しておられる患者さんの退院を支援し、退院後の生活を支援する活動です。そのために、まず入院患者さんに会って、話すところから始めることとなります。現状を教えてください、今の気持ちを教えてください、ときには退院への不安を共有し、それでも退院への気持ちを持っていただけたら、そこからは具体的な退院に向けての準備となります。退院先を相談して、そのために準備しなければならないものを一緒に考えて、ときには一緒に外出して、アパートを探したり、必要品を買ったり、一緒に外食してみたり。その活動のすべては、まず患者さんご本人に会うことから始まります。

コロナ禍で、こういった活動がことごとくできなくなりました。全国の多くの病院、施設でクラスターが発生し、病院は感染対策に追われることとなり、外部からの面会・外出などに関しては、一時はほとんどの病院で叶わなくなりました。当然私たちの地域移行支援事業も、開店休業状態に追い込まれました。それでも、コロナ禍に襲われる以前から関わっていた患者さんたちの場合は、オンラインその他の方法もさまざまに工夫して関わりを継続し、退院に向けてなんらかの活動を継続することもできましたが、しばらくの間は新しい患者さんに出会うことがほとんどできない状況が続きました。

それでも、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が感染症法上の2類から5類に引き下げられるなどの変化もあり、各病院の感染症対策も少しずつ変化しています。そのような流れの中で、令和2年度、3年度、4年度と大きく減少していた入院患者さんへの面会も令和5年度に入るとかなり回復してきました。一時中止していた実践報告会も再開し、さまざまな活動が、まだ「元通り」とは言えませんが、少しずつ少しずつ戻りつつあります。

本報告書では、そのような5年間の活動の停滞とそして再開をご報告いたします。この5年間は非常にもどかしい5年間ではありましたが、それでも私たちは前に進みたいと考えて来ました。地域移行支援活動全体としては、コロナ前の状態に復帰することが当面の目標となりますが、その中で例えばピアサポーターとの協働に関しては「コロナ前以上の活動・協働」を目指しています。本報告書の中で、私たちのこの5年間の停滞と、再開と、今後目指すものをお伝えできれば、と願っております。

令和7年3月

岡山市こころの健康センター 所長 太田 順一郎